

第1回オープン講座・海南初夏の集い 生徒も先生も後援会・PTA・市民も大活躍
<スケッチ1>看護体験「手洗い講座」では保護者が生徒に学校生活に関する質問を次々に！

201の生徒と看護科の先生達の講座。部屋に入った時にはすでに手を洗い終え、ブルーライト(?)で汚れのチェックをしていました。生徒にライトをあてられている中学生は少しあはにかみながら生徒の説明を聞いていました。対照的なのが付き添いの保護者さん達。生徒に質問の連続です。

保：（遠方から通学している生徒に）「家は何時に出るの？」

生：「私は6時半頃です。」

保：「朝食は？」

生：「食べずに出て途中で買うこともあります。」

保：「じゃあスクールバスの中で食べるんだ。」

生：「バスの中は飲食禁止なので…」

保：「昼食は？」

生：「お弁当ができない時は学食で買います。」



保護者さんは生徒の学校生活に強い関心を持っていて、自分の子どもを通学させる時の参考にしているようでした。入学に結びつくと良いですね。

<スケッチ2>ガトーショコラに挑戦 そこで思わぬ再会のドラマが！

甘い香りに誘われて家庭科調理室に。机の上には焼き上がった色々なショコラが。物欲しそうな顔をしている私にカボチャの種が入ったショコラをお母さんがくださいました。種の食感がたまならくおいしかったです。少したって冬部先生が栗山リンダさんをつれて戻ってきて、1人の参加者の所に案合を。2人は懐かしそうに話し始めたが、なんとその女性はリンダさんが通っていた幼稚園の園長さんでした。新聞に載った記事を読んで「あのリンダちゃんかな。」と思ったそうです。それを聞いた冬部先生が再会の機会をつくりました。そして冬部先生しみじみといわく。

「地域と結ぶ活動をしているとこういう事がおきるんですね。」 いい言葉ですね！

<スケッチ3>後輩たちの変化を紹介して温かく励ますリンダさんにリーダーの風格を感じました。

村上雅文先生とともにメイン企画の講演に臨んだリンダさん。大学生らしいでたちで愛知県高校生フェスティバルでのエピソードを語ってくれました。その中でも、高フェスの活動がうまくいかず金山駅への道を泣きながら歩いて高フェス顧問団長の村上先生に電話をしたくだり。「家帰って落ち着いたらまた電話して。話ぐらい聞いたるわ。」が「多分普通な感じだと思うけど、村上先生は迎えに来てくれて、話を聞いてくれて、家まで送ってくれた。」このような村上先生の寄り添いがリンダさんを支えていた事を知りました。話の最後にリンダさんとともに活動し今も頑張っている後輩2人の名前をあげながら、彼らの変化（成長）を紹介ながら温かく励ますリンダさんにリーダーとしての風格を感じる講演でした。自分自身でも言っていましたが、これからもどんどん大きくなっていくリンダさんにエールを送りたいと思います。



